

新たな漁港漁場整備長期計画のポイント

現状・課題

- 水産資源の減少、漁業者の高齢化、漁村の人口減少に加え、気候変動に伴う海洋環境の変化、自然災害の激甚化等により、取り巻く環境は依然厳しい状況
- 新たな資源管理、需要に応じた養殖生産への転換、輸出促進を進め、グリーン化やデジタル化等の新たな社会情勢の変化への対応が必要

重点課題

産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

「海業うみぎょう」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

実施の目標と目指す姿

ア 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

- ◆ 漁港機能を再編・強化し、低コストで高付加価値の水産物を国内・海外に供給する拠点をつくる。



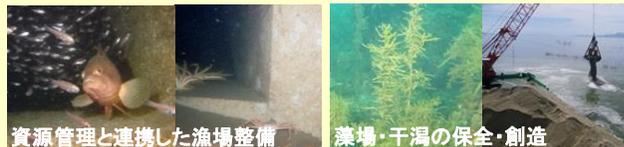
イ 養殖生産拠点の形成

- ◆ 国内・海外の需要に応じた安定的な養殖生産を行う拠点をつくる。



ア 環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ◆ 海洋環境を的確に把握し、その変化に適応した持続的な漁業生産力を持つ漁場・生産体制をつくる。



イ 災害リスクへの対応力強化

- ◆ 災害に対して、しなやかで強い漁港・漁村の体制をつくる。将来にわたり漁港機能を持続的に発揮する。



ア「海業うみぎょう」による漁村の活性化

- ◆ 海業等を漁港・漁村で展開し、地域のにぎわいや所得と雇用を生み出す。



イ 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ◆ 年齢、性別や国籍等によらず多様な人材が生き生きと活躍できる漁港・漁村の環境を整備する。



(共通課題) 社会情勢の変化への対応 (グリーン化の推進、デジタル社会の形成、生活スタイルの変化への対応)

主な成果目標

- 流通拠点漁港において、総合的な衛生管理体制の下で取り扱われる水産物の取扱量の割合 **45%(R3) ⇒ おおむね70%(R8)** 等

- 流通拠点漁港における、被災後の水産業の早期回復体制が構築された漁港の割合 **27%(R3) ⇒ おおむね70%(R8)** 等

- 漁港における新たな「海業うみぎょう」等の取組件数 **5年間でおおむね500件** 等

※海業(うみぎょう): 海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業であって、国内外からの多様なニーズに応えることにより、地域のにぎわいや所得と雇用を生み出すことが期待されるもの